

福井県海外技術研修員制度
発足 3 0 周年記念訪伯
視察報告書

平成 2 2 年 8 月

南米視察日程

日 時	日 程
8 月 2 日 (月)	10:00 日本ペルー友好議員連盟会長との意見交換 11:00 ペルー国会議長表敬 14:00 天野博物館視察 16:30 ペルー環境省視察 18:00 日本大使公邸での意見交換
8 月 5 日 (木)	18:00 東京三菱UFJ銀行との意見交換
8 月 6 日 (金)	12:00 在サンパウロ領事との意見交換 13:00 先没者慰霊碑の参拝 14:00 サンパウロ州議会の表敬訪問 15:30 移民史料館の視察 16:00 日系3団体との意見交換 18:00 県人会との意見交換会
8 月 7 日 (土)	10:00 福井村視察（日本人学校、農園他）、植樹 11:00 歓迎式典 14:30 ピニャール青年図書館視察 15:30 山本山農場視察
8 月 8 日 (日)	10:00 海外技術研修員制度発足30周年記念式典 12:00 海外技術研修員OBとの意見交換会
8 月 9 日 (月)	15:00 サンパウロ州立大学日本文化研究所視察

ペルーの日本大使館における意見交換内容

日 時/平成22年8月2日 18:30～20:30

場 所/ペルー日本大使公邸

参加者/目賀田大使、宇田川一等書記官、

カプニャイ駐日大使

ラファエル・ヤマシロ日本ペルー友好議員連盟会長

(目賀田大使)

- ・ペルーは、世界のF T Aの拠点国（ハブ）になろうという明確な政策をもっている。
- ・現在、F T Aに関しては、タイ、米国、チリ、カナダ、シンガポール、中国と締結しており、E F T Aとは交渉妥結している。ライバルの中国（署名済）や韓国（合意）に先を越されている状況。韓国はF T Aにより市場先占効果を狙っている。
- ・日本からペルー向け輸出の約6割は自動車および自動車部品であるが、ペルー側で9%の関税がかけられており、将来日本企業が不利な立場に置かれる可能性が高い。日本車の輸入車におけるシェアは、10年前は60%あったが本年46%に低下、逆に韓国車は、7%→24%に上昇している。
- ・F T Aの締結など、日本企業の競争条件の確保をしっかりとやっていかないと、先行している分野においても、将来は中国、韓国に負けてしまう。その結果、農産物価格が低落するかもしれないが、農業に関しては、国内措置として保護すればよい。
- ・ペルーは、非鉄金属を中心として世界有数の資源国（銀、銅、亜鉛、ウラン、石油、天然ガス、リンなど）であり、食糧供給国としての将来性も高い。韓国はペルーの油田開発に投資している。
- ・ペルーは、外資による投資を歓迎しており、鉱物資源開発、インフラ整備、環境分野への投資促進を経済対策の一環として位置付けている。
- ・ペルーは地理的には遠いが、歴史的には親密なつながりがあり、ブラジル、米国に次ぐ日系社会を有している。
- ・しかし、ペルーと日本において、姉妹都市交流はまだ例がなく、ぜひ実現したいと考えている。
- ・また、福井県出身の移民は195人（全国で17位）いるが、県人会組織がない。核となる家族を選び、県人会の組織作りを行っていききたい。

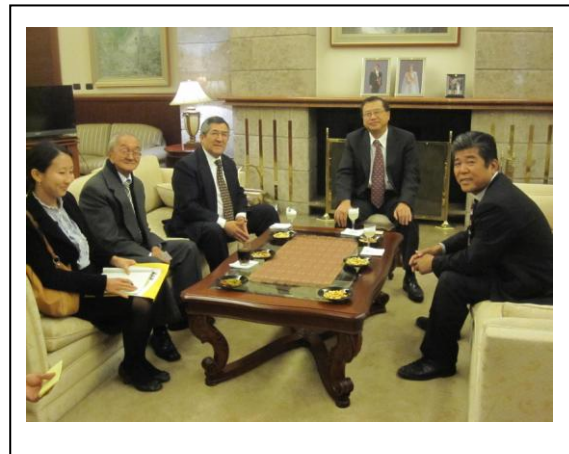
- ・ペルーと日本の大学の交流も面白いと思う。

(カプニャイ大使)

- ・食や文化、観光、エネルギーなどに関して、イカ県やイカ市、そして福井市（県？）との共通点を見出して、姉妹交流につなげていきたいと思っている。
- ・イカの食文化（ワインなど）のPRをお願いしたい。

議 長

福井市をはじめ県内の市や町にあたってみたが、歴史的な経緯や共通点がないことや、財政的な理由もあり、現時点で前向きに考えるところはなかった。まずは、県民にペルーの食や文化について知ってもらい、民間レベルで機運を高めていくことが大切だと思っている。福井県内でペルーの食や観光をPRするイベントを検討している。ワインなどの食文化については、積極的にPRしていきたい。



ペルー国会における意見交換

ラファエル・ヤマシロ議員（イカ県選出） **Rafael Yamashiro**

・ペルーと日本において、姉妹都市交流はまだ例がなく、福井とイカ県との交流について、時間がかかるかもしれないがぜひ実現したいと考えている。



セサル・スマエタ議長 **Cesar Zumaeta**

・日本とペルーの交流が今後さらに発展することを期待している。自治体間の交流も重要であり、今後、福井県との交流が進むとよいと考えている。

・フジモリ大統領の時に、国会改革を行い、2院制（240人 上院60人、下院180人）を1院制（120人）にした。官僚も大幅に削減した。



ペルー環境省

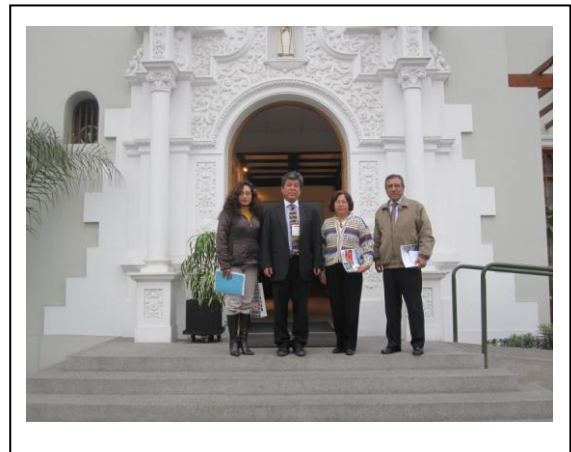
日 時/平成22年8月2日 16:30～17:30

場 所/ペルー環境省 環境専門官 アデラ・ソリス

ペルーは熱帯雨林、砂漠、山岳、海岸地帯と多様な自然環境と生物相を有している。地球温暖化による気候変動の影響から、生物多様性を保護するため、ガルシア大統領主導で2008年5月に新設された。アメリカとのF T A交渉で、環境保護の遵守を誓約したことが新設のきっかけ。鉱山会社からは、新たな発掘事業の投資が抑制されるのではと反対が起こった。

ペルーの熱帯雨林は地球温暖化防止に重要な役割を果たしている。植林活動と排出権取引の促進により、地球温暖化を阻止すべきである。特に化石燃料税により、植林・緑化のための基金を創設すべきでは。

クリーンエネルギーの推進については、技術的にはこれからであり、現在のところ原子力発電の計画はない。



天野博物館

事務局長 阪根博、キョウダイ社 アルマンド大内田、天谷夫人

実業家である天野芳太郎（1898 年～1982 年）が、1964 年に私財を投じてリマ市見たフローレス地区に設立した古代インカ、プレインカの資料を収集・展示している考古学博物館。

天野氏が発掘に心血を注いだチャンカイ河谷の遺跡から出土した土偶、土器、織物などの展示品が目玉となっている。天野氏の孫にあたる阪根博氏による解説。

阪根博氏は日本での講演活動を精力的に行っており、坂井市でも講演予定。



三菱東京UFJ銀行との意見交換

日 時 平成22年8月5日（木） 18：00～
場 所 マツバラホテル
相手方 ブラジル三菱東京UFJ銀行 営業部 大村卓也
 バンコ・ブラデスコ 吹沢大介

・80年代のブラジルハイパーインフレで日本企業は痛い目にあったが、それ以降、バブルの崩壊もあり、日本企業のブラジルへの投資は消極的であった。

・トヨタの工場建設など、最近になって日本企業も動き出したが、中国、韓国に後れをとっている。

・日本企業の場合、進出すると直ぐに成果を上げなければ撤退の対象になる。韓国のサムスンは、進出する場合、まずは社員を1年間現地で生活をさせ、現地の生活習慣や文化を徹底的に身につけさせ、ニーズを把握させる。それが、日本企業と韓国企業との差になって現われている。

在サンパウロ日本国総領事館領事との意見交換

日 時 平成22年8月6日 12:00～13:00
場 所 日本食レストラン「新鳥」
参加者 主席領事 小林雅彦 領事 松代俊則（三国町出身）
福井県議会
斎藤県会議長、山岸議員、鈴木議員、（随行）渡辺
福井県
国際マーケット戦略課 岡村課長、森国主任

内 容

- ・ ブラジルでは1980年代にハイパー・インフレで経済が混乱し「失われた10年」と言われた。90年代にインフレが収束し政治・経済が安定すると、欧米企業を中心にブラジル投資のブームが起きた。しかし、バブル崩壊で低迷していた日本企業はブラジル投資に躊躇しており、中国や韓国にも先を越されている状況である。
- ・ 自動車でいうと、フィアット、VW、GMが主流。日本車は1割にも満たない。ホンダが10万台、他社は10万台未満。トヨタは最近伸びており、年間20万台生産のカローラの小型車第2工場建設予定。
- ・ オートバイはホンダのシェアが高く、最近は農村地域での販売が好調。農村地域の所得が増えたことから、馬からオートバイへの転換が進んでいる。
- ・ 中国・韓国の企業が最近目立つ。携帯ではLGやサムスンが伸びている。韓国の自動車メーカーは、新聞の1、2面を買い上げている。韓国製品へのあこがれがある。日本製品には信頼があるが、韓国製品ほどのあこがれはない。
- ・ 日本はかつて農業で支援していたが、今は大豆も中国などに買い負けてしまい、日本に入らない状況である。農業支援はなんだったのか。
- ・ 中国・韓国がかなわないのは、日系社会が築き上げてきた“信頼”である。市役所などでも2世、3世が活躍し、丁寧なサポートをしてくれる。
- ・ ブラジル日本商工会議所には約300社が加盟し、うち日系企業は60社。

- 都市部でもインフラが不足しており、成長の阻害要因になっている。交通渋滞が深刻。空港からの交通手段は自動車しかなく、時間帯によっては市街地～空港に3時間（通常1時間）かかることもある。車番による乗り入れ制限もしている。
- レアル高でブラジル人の海外旅行が増えている。
- 福井県関係では、セーレンの現地法人であるオートモティボ社が新社屋を増設した。三谷商事の眼鏡卸現地法人「ミタニオチカ」は売却・撤退した。
- ブラジルは本年10月に次期大統領選挙がおこなわれる。現在のルーラ大統領(労働者党)は労働組合出身（工場の旋盤工）であり、当初はベネズエラのようになることが心配されたが、前政権の経済運営が踏襲され、今は政治的にも安定している。
- ブラジルの内需が伸びている要因は、資源が豊富であること、家族手当などの政策で貧困層の所得が上がったことが考えられる。高かった金利も現在は安定する傾向。

日本移民開拓先没者慰霊碑の参拝

日 時 平成22年8月6日 13:30～
場 所 サンパウロ市イビラプエラ公園内
相手方 在伯福井県文化協会会長 志田茂夫
ブラジル日本都道府県人会連合会副会長 小山田祥雄
ブラジル鳥取県人会会長 本橋幹久
在伯和歌山県人会連合会会長 木原好規

ブラジルの開拓に寄与した移民先没者の慰霊碑を参拝し、今までのご苦勞に感謝するとともに、先没者の方々の御霊のご冥福を祈念した。

＜慰霊碑建立の経緯＞

1972年、日本海外移住家族会連合会の藤川辰雄事務局長が来伯の折、サンパウロ州奥地の日本人無縁仏を回向しながら調査し、351柱を供養したが、全伯にはまだ多数の無縁仏のあることが判明したのがきっかけで、1974年、再び来伯した藤川は県連にはかつて先駆者の慰霊碑建立について賛同を求めた。

県連もこれに応じて「日本移民開拓先没者慰霊碑建立管理委員会」をつくり、直ちに慰霊碑建立募金運動に乗りだし、コロニアの募金を主体に日本の家族からの寄付などもあって、1975年3月には、イビラプエラ公園内の日本館に近い場所にサンパウロ市より永代無償貸与の条件で用地を確保し、地鎮祭を行った。

完成の除幕式は1975年8月22日、日本からは日本海外移住家族会連合会の田中龍夫会長および福田赳夫副総理が出席して行われた。慰霊碑は黒御影石で、田中角栄首相の筆による「開拓先没者慰霊碑」の碑銘が入っている。

地下の霊安室には平和観音像と物故者過去帳、各県人会別の過去帳が収められている。また後には、日本から観世音菩薩像と地藏尊像が贈られた。

毎年6月18日の「移民の日」に行われる慰霊碑参拝はコロニアの公式行事だが、日本からブラジルを訪れる公式訪問者にとっても慰霊碑参拝は通例になっている。



サンパウロ州議会での意見交換

日 時 平成22年8月6日 14:30～15:20

参加者 サンパウロ州議会議長代理

州議会議員 ジョアン・バルボーザ (Joao Barbosa)

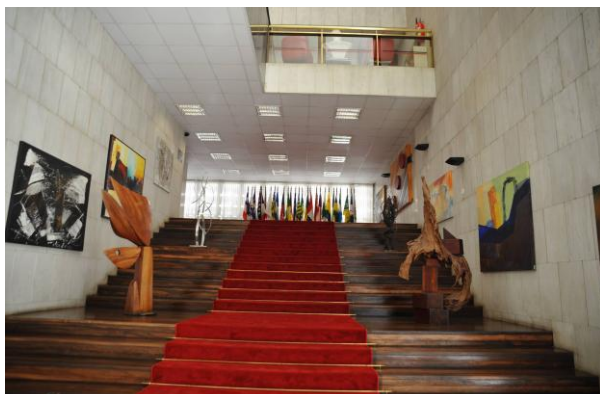
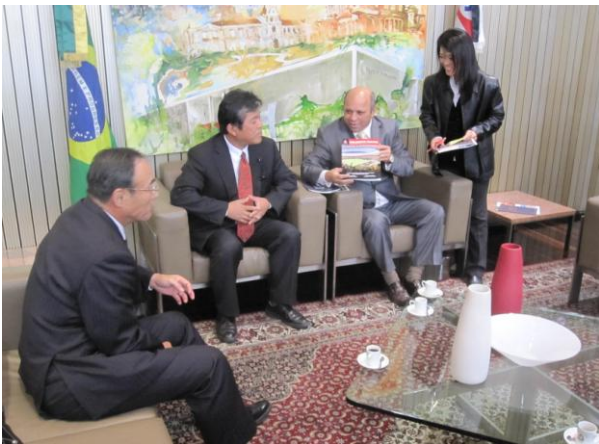
福井県議会

斎藤県議会議長、山岸議員、鈴木議員、(随行) 渡辺

福井県 国際マーケット戦略課 岡村課長、森国主任

内 容

- ・ サンパウロ州は人口4,200万人で州議会議員が94名。任期は4年、議長の任期は2年である。与党の勢力は74人。サンパウロ州では立候補者数の30%は女性でなければならないというルールがある。
- ・ 投票は、18歳から70歳までのすべての住民に義務付けられている。候補者は政党に属していなければならない。
- ・ 議員活動の評価については、インターネットで議員の出した法案を住民がチェックできる。予算が適正に使われているかをチェックする。特定のエリアの人からの評価ではない。(州議員は人口約45万人に1人)
- ・ 地元からの要請については、住民が州政府の担当部署に直接行う場合が多く、議員による公共事業や補助金の口利きは禁止されている。
- ・ 日本とブラジルの関係は100年以上続いており、これを途切れることなく発展させていくことがなにより重要である。



ブラジル日本移民資料館の視察

(Museu da Imigracao Japonesa)

1978年、移民70周年を記念して造られた資料館。

1908年第一回移民が笠戸丸で移住してからの日本移民の生活を写真や模型で分かりやすく説明している。再現された当時の住宅や、実際使われていた日用品などの展示物を見ていると、当時の移民の苦労が偲ばれる。



日系3団体との意見交換について

日時 平成22年8月6日 16:00～

場所 日本文化センター

ブラジル日本文化福祉協会 会長 木多喜八郎

創立は1955年、会員数は約2,500人。地方の日系人会や各文化団体を結束する中央日本人会的存在として、日本ブラジル両国の文化活動の一端、ブラジル移民周年事業等を担っている。

日系6世が生まれている時代であり、今後、日本や日本人とどうつながっていくかが課題である。

そういう状況の中で、郷土食祭りを開催して13年目になる。大変人気があり、20万人が参加する大イベントで47都道府県が郷土食を競う。福井県は毎年、海外技術研修員OBを中心に「越前おろしそば」を出店している。

サンパウロ日伯援護協会 会長 森口忠義イナシオ

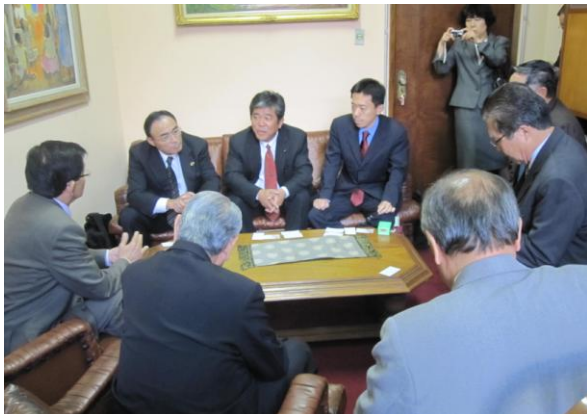
創立は1959年、会員数は約17,770人。サンパウロの日系社会を代表する総合的福祉団体であり、総合病院「日伯友好病院」等の医療機関を運営しているほか、身の上相談、生活援護、地方への巡回診療の実施、老人ホーム、リハビリセンター、結核療養所の運営など、多方面に活動を展開している。

病院は移住者のために設立したが、現在は患者の95%が日系人以外となっている。6割は医療費無料。

ブラジル日本都道府県人会連合会 会長 与儀 昭雄

創立は1966年、会員数は約13,500人（47県人会）。在ブラジル都道府県人会の連合機関。各県人会の相互の連絡、支援、スポーツ大会、初期移住者訪日団の送り出し、日本文化紹介の「日本祭」等の活動を行っている。

海外技術研修をやめる県が多いが、海外技術研修員のOBが今の県人会会長を務めるなど、交流のリーダー的存在になっている。ぜひ続けてほしい。



在伯福井県文化協会役員との意見交換会

1 日 時 平成22年8月6日（金）
18：30～

2 場 所 在伯福井県文化協会

3 応対者 在伯福井県文化協会
会長 志田茂夫 他

4 概 要

県人会は研修員制度が継続されていることに感謝し、今後も継続を強く要望しているが、日本語を話せる日系人が減っており、候補者の推薦が厳しくなっているという現実がある。

県としては研修期間を延長し日本語研修を強化したが、さらに日系人以外の研修生を受入れるとか、英語で研修する等の対応は制度の目的に適合しない。現在の条件に合い研修意欲のある研修員を続けて推薦いただけないなら制度の存続は難しい。

《ブラジル福井県文化協会概要》

1 設立目的 ブラジル在住本県移住者の定着安定を図り、会員相互の親睦福祉を促進するとともに、母県からの訪伯者に対する便宜供与を行い、母県とブラジルを結ぶ唯一の機関として献身的活動を行う。

2 沿 革

昭和29年（1954年）8月

「在伯福井県人会」として発足

昭和56年（1981年）4月

名称を「在伯福井県文化協会」に変更

平成16年（2004年）1月

名称を「ブラジル福井県文化協会」に変更

3 組 織

（1）役 員 下記のとおり

（2）会 員 350世帯（約1,750人）

（3）所在地

サンパウロ市リベルダーデ区 エスツダンテ街15－8

4 活動内容

（1）在伯移住者の定着、安定のための事業

（2）母県からの訪問者の歓迎、便宜供与

（3）母県との交信、連絡

（4）会員の福利厚生のための事業

- 5 県の助成 ○県人会活動補助事業(昭和46年度～平成22年度400千円)
○在伯福井県文化協会交流センター整備事業補助
(マンションの一部を購入整備 平成5年度、10年度
計42,000千円)

(ブラジル福井県文化協会役員名簿)

会長	志田茂夫
副会長	石津黎子、西川修治、佐々木則一
会計	川崎省三、野中エリザ
書記	柴田イナシオ、西村純子
理事	大橋教子、増田要、曾山良江、貴田孝平、前田成夫、 後藤ホドリゴ、西川愛
監査役	(正) 山下広治、森瀬清和、伊藤ファビオ (補) 曾山久子、曾山ゼリア、土井ソーニア

太字は海外技術研修員OB



福井村（コロニアピニャール）の訪問について

- 日 時 平成 22 年 8 月 7 日（土） 10:00～
場 所 サンパウロ州サンミゲルアルカンジョ市
ピニャール耕地（通称 福井村）
※サンパウロ市より西方 175 キロ、サンミゲルアルカンジョ市街地より東方 18 キロに位置する
- 出席者 福井村住民、サンミゲルアルカンジョ市長・市議会議員
日伯福井県文化協会役員、セーレン関連企業社長
青年協力隊員
- 内 容 1 植樹式
斎藤議長、山岸議員、鈴木議員がカイツカイブキを植樹
2 日本語モデル校の視察
3 歓迎式典（別紙のとおり）
議長あいさつ
サンミゲル・アルカンジョ市長あいさつ
サンミゲル・アルカンジョ市議会議員あいさつ
山岸議員から福井村へ記念品贈呈
4 懇談会
※村の女性の手作り料理、子ども達の太鼓演奏で歓迎、一昔前の村落共同体の結びつきが残っている。

（福井村の概要）

- 1 面 積 第 1 ピニャール 7 6 2 ha
 第 2 ピニャール 1 8 0 ha
 計 9 4 2 ha
- 2 在 住 者 福井県人 1 7 世帯
 他県人 3 5 世帯 人口 約 2 2 0 名
- 3 沿 革
戦後の人口急増により食糧不足などが深刻化、国は移住政策を再開し、移住振興公社（現国際協力事業団）がブラジルの各地に移住地を造成した。
ピニャール移住地（福井村）もその一つ。J I C A 直轄の移住地

として、南伯農協中央会が造成と営農指導を担当し、村づくりが行われた。

1962年（昭和37年）3家族14名が第一弾として入植、開拓営農に入る。

その後、日本の復興が軌道に乗り、後継の移住者が減少したため、入植希望者を全国公募に切り替え、1966年（昭和41年）満植となる。

（福井出身22世帯、他県出身29世帯）

南伯農協中央会の企画により、第2ピニャールが隣接地に造成される。

福井県は、県人入植者に土地代の一部を補助したり、電気導入、会館建設、日本語教師住宅の建設を支援。



4 産 業

農業中心で果樹（イタリアぶどうが主産物）、野菜の栽培、養鶏、他に柿、ビワ、ポンカン、アテモヤ等

新しい農産物として、デコポンの生産を開始。隣村に派遣されたJICAシニアボランティア（九州出身）の指導を受けた。派遣期間2年のところを6年に延長してもらい、植えてから実が成るまで3年、実が成ってから3年指導を受け、改良した。従事者は比較的若い（30～50代）。ブラジルでの価格は安いので、輸出を目指している。

海外技術研修員OBが農業の後継者となっている。

5 施 設

昭和32年国際協力事業団直営ピニャール移住地として造成され、同事業団の助成により村までの取付け道路、村内主管道路の整備、電話線の取付けがなされ、また事業団と福井県の助成により、電気が引かれた。昭和55年度には福井県の助成により村の集会場としての文化センターが建設されている。（昭和55年度、平成3年度計51,260千円）

村の教育機関としては公立の小学校1校がある。他に正式な学校ではないが、村民が費用を出し合って設けている日本語学校（日本での塾的なもの）が1校ある。

6 村機構

コロニアピニャール文化体育協会
コロニアピニャール日本語モデル校
サンミゲールアルカンジョ南伯農協
ブラジル日本文化協会福井村支部

7 その他

- ・ 福井村の周辺にはユーカリが植林されている。主にパルプの原料として 利用。伐期までに、北アメリカでは12年かかるが、ブラジルでは半分の 6年。かつては、マラリア予防のため蚊除けとして植えられていたもの。
- ・ ユーカリの植林技術では、ブラジルは先端を走っており、生産はシステム化。日伯紙パルプ資源開発のセニブラ社では、原木から採った樹皮はボイラーで燃やして自家発電を行っている。



コロニア・ピニャール文化体育協会の概要

1 設立目的

コロニア・ピニャール（福井村）に居住する日系人の生活安定と生活改善および会員相互の親睦福祉を促進する。

2 沿革

1962年（コロニア・ピニャールへの入植開始年）
「コロニア・ピニャール日本人会」として発足
のち「コロニア・ピニャール文化体育協会」に変更

3 活動内容

- （1）文化関係地域ブロック大会への参加事業
- （2）スポーツ関係地域ブロック大会への参加事業
- （3）会員の福利厚生事業
- （4）会員の生活安定、改善
- （5）日本語学校の運営
- （6）ブラジル人社会との交流
- （7）道路の補修、その他村造りへの協力

4 役員

会 長	西川修治
副 会 長	越智勝治 徳久利行
会 計	本間アントニオ 上田博
学務担当	遠田ミルトン
体育担当	徳久利行
道路担当	有我定夫
厚生担当	武藤良子
文化担当	本間アントニオ
監 事	川上忠義 山田ファビオ 山下治

コロニアピニャール日本語モデル校について

日本語モデル校教師 谷口あい子氏（JICAボランティア 福井市出身 任期 2010.7.1～2012.6.30）と意見交換

- ・日本語教育の歴史はコロニアピニャールへの入植初期から始まるが、1991年、JICA青年ボランティアが赴任したことにより、生徒数も60名を超え、現地教師1人を雇用して2人体制となる。
- ・1997年2月、念願の新校舎がJICAの支援を受け、日本語モデル校として完成、開校された。
- ・2008年7月から、JICA日系社会青年ボランティア1名が赴任 現在の生徒数は約30人。
- ・生徒は、午前中は地元の公立小学校、午後は日本語学校へ通う。
- ・高棕小学校と交流しており、児童の絵を、交流員を介して交換している。絵は校舎ホールに掲示されている。

《日本語モデル学校運営委員会 役員》

委員長	田中徳郎
副委員長	西川修治
総務	広瀬義夫
財務	大橋勇
管理	市川考三
委員	父兄会会長 山田ファビオ





ピニャール青年図書館について

日 時	平成22年8月7日（土）14：30～
場 所	コロニアピニャール内
面会者	館長 天野鉄人
概 要	天野氏が、自費で図書館、宿泊施設を建設、図書館は村民が無料で利用している。蔵書数7万5千冊、ビデオ2千本。宿泊施設は最大100人宿泊でき、林間学校、ボーイスカウト等が利用。隣接地に武道場を建設中。



山本山の製茶工場および茶畑の視察について

日 時 平成 22 年 8 月 7 日 15 : 30

場 所 山本山茶園、製茶工場

相手方 山本山 農場長 氏

- かつては、レジストロで緑茶の生産が行われていたが、1976年に山本山がブラジルに進出してきた。当初はコチャ産組、丸紅、山本山の JV であったが、コチャと丸紅が抜け、山本山 1 社となった。現在、ブラジルの緑茶生産は山本山が独占している。
- 現在もレジストロ近郊に農園、工場を持ち、緑茶の生産も行っているが、主力はパラナ州クリチーバ近郊に移し、農園（緑茶に最適な品種である「やぶきた種」を導入している）、製茶工場を稼働させ、緑茶（煎茶）をアメリカ等に輸出している。
- 山本山の緑茶の輸出量（単位 t）は下記のとおり。

1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
411	277	316	369	355	317	291	354	396	377

- 日本等が人件費の高騰から、付加価値の高い玉露等を生産の主力として来たため、一般茶の番茶、煎茶が品薄減少が起きていた。山本山がブラジルで一般茶に生産のターゲットを絞ったのは成功である。年間約 400 トン生産しているが、国内消費は 40－50 トンである。年 12 回採れる。5 月～9 月は休み。



海外技術研修員制度発足 30 周年記念式典

日 時	平成 22 年 8 月 8 日（日）
場 所	静岡県人会会館ホール
参加者	ブラジル福井県人会、海外技術研修員 O B 他
内 容	1 開会宣言 2 日伯両国家斉唱 3 先没者黙とう 4 在伯福井県文化協会 会長挨拶 5 福井県議会議長挨拶 6 福井県知事のメッセージ代読 7 来賓、研修生代表挨拶 8 感謝状授与 9 祝賀プログラム 10 研修生 O B との意見交換

主な意見交換

- ・ 福井県での技術研修、日本語研修が現在の業務に役立っている。特に研修において、日本人の習慣、考え方、会議のやり方などを学ぶことができ、日系企業で日本からの駐在員と現地従業員との橋渡し役となっている。
- ・ 研修生 O B は日系企業（NEC、味の素、公文）のほか、歯科医、国家公務員、経営者、農家などとして、活躍している。
- ・ 福井での生活や福井県民との交流により、日本の伝統、文化、生活を知ることができ、自分を日本人だと思えた。
- ・ 研修生 O B は、県人会の中核的存在として、日本とブラジルの交流の担い手となっている。日系企業は現地での労務管理に悩んでいるが、現地に定着するために、研修生 O B は現地従業員との橋渡しとして欠かせない人材となりうる。現地法人のトップとして日本から派遣されてくる人は、ポルトガル語ができない、現地の事情もわからない、3～4 年で交代するため、日系の人材の活用は不可欠。
- ・ 日本の商社等の駐在員は非常に優秀な人が多いが、本社からの視察のアテンドなど内向き雑用ばかりしている。他の国の駐在員は営業や調査などの業務に 100% 専念している。これが現在の日本企業の不振の原因と思えてならない。

- ・研修員のOBは、両国の懸け橋になろうという意識が強く、今後も研修制度を続けてほしい。



海外技術研修員OBとの懇談会

- 1 出席者 海外技術研修員OB
ブラジル福井県文化協会会長 志田茂夫

- 2 概 要

研修の経験を活かして日系企業に就職、日本人駐在員と現地従業員との調整役になって企業に貢献している例が多い。

県人会や福井村の農業の担い手として活躍している。

海外技術研修員制度を継続してほしいという要望が強い。

県から、「福井県の企業には、英語、ポルトガル語で研修を指導できる人はいない。技術研修には研修員の日本語能力は必須であり、現在は日本語研修を2月間に延長してフォローしている。今後も研修を継続していくには、研修を希望者の方が、事前に自分で日本語を学びある程度習得していることが必要」と伝える。

(OBからの意見については別紙のとおり)

サンパウロ州立大学日本文化研究所訪問

日 時 平成22年8月7日 15:30

場 所 サンパウロ州立大学哲学文学人間科学部日本文化研究所

相手方 織田順子教授、森幸一教授

- ・織田教授は、両親が福井県（坂井市丸岡町）出身。1962年ぶらじる丸で渡航し、福井村に移植。
- ・サンパウロ州立大学は「世界の大学30位」に入る名門校。世界的評価は東大より高い。学生の日系人比率は全体で15%、理工系、医学系で30%と驚異的である。（サンパウロ市の日系人比率は5%、州では3%程度）
- ・学生は、哲学文学人間科学部で一年間一般教養を学び、二年目に本人の希望と学力で選考を決定する。その中に「日本語」のカリキュラムを置いている。
- ・日本語1年（学部2年）で初級～中級の日本語能力を習得、二年目（学部三年）に文学入門・文学史や論文の読解を学び、最後の一年（学部4年）で文学作品の分析を行う。
- ・日本語の公開講座を開設し、日本語能力試験3・4級の合格を目指している。学生だけではなく一般の聴講性も受け入れている。

